

平成21年度第2回千葉県スポーツ振興審議会 会議録

平成22年3月18日(木)

14時00分～15時30分

於 千葉県総合スポーツセンター

スポーツ科学センター 第2, 第3研修室

<出席委員> (敬称略50音順)

青木 寛	荒川 昇	浦井 孝夫	金澤 篤志
越川 悦子	篠田 哲彦	谷藤 千香	中村 恭子
蒔田 実	牧野由美枝	森 和美	柳川 尚子

<出席事務局職員>

教育委員会	教育長	鬼澤 佳弘
教育振興部体育課	課長	佐久間嘉宏
主幹兼学校体育室	室長	北田 昭雄
主幹兼スポーツ振興室	室長	越川 均
学校体育室	主査	東端 利樹
	指導主事	嶋田 武彦
スポーツ振興室	主任指導主事	石見 涼二
	主任指導主事	栗原 政賢
	指導主事	佐藤 道広
	指導主事	加瀬 宏
	指導主事	北林 栄峰
	指導主事	齊藤 隆作
	指導主事	伊藤 忠幸
	副主査	倉持美恵子
国体・全国障害者スポーツ大会局		
大会総務課	課長	石井 利夫
	主査	白鳥 寿

< 次 第 >

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 挨拶
- 4 議 事
- 5 閉 会

< 議 事 >

1 報告事項 1

- 平成21年度各種大会結果について
 - ア) 全国高等学校総合体育大会
 - イ) 第64回国民体育大会・第9回障害者スポーツ大会
第65回国民体育大会冬季大会

大会結果の報告の前に、昨年の9月に体育課スポーツ振興室にマラソン準備班ができましたので、報告いたします。

県民のスポーツ機運の更なる高揚を目指すイベントとして、また、県民のスポーツを通じた健康増進や体力向上の促進及び千葉県が有する様々な魅力の発信を目的とするアクアラインを活用したマラソンを行うことを県では計画しております。

開催については今現在検証中で、今年度は、750万円の予算を計上し、開催に係る所要経費、道路交通調査、大会の運営方法及びランナー、コース沿道住民等の意識調査などを行ってきました。

交通規制の計画や、県費負担の軽減策など、更なる調査を行う必要が生じたため、次年度においても、民間活用を含めた県費負担軽減策、アクアラインの交通規制のあり方、開催に伴う県民の意向調査、各種メディアの活用策など、引き続き調査する予定であります。

それでは最初に、全国高等学校総合体育大会についてご報告いたします。

本年度のインターハイ「近畿まほろば総体」は、奈良県を中心に開催されました。団体男子においては、県立小見川高等学校がボートで、県立佐原高等学校はカヌー（200m）で、それぞれ優勝しました。県立佐原高等学校は、カヌー（500m）でも準優勝と好成績を収めました。そのほか、市立船橋高等学校が体操競技で、県立幕張総合高等学校が登山（縦走）で、桜林高等学校が水泳の飛込みにおいて、それぞれ3位入賞を果たしております。

また、団体女子では、木更津総合高等学校のソフトボールと、県立千葉東高等学校の登山が、それぞれ準優勝し、県立市川東高等学校がなぎなたで3位入賞を果たしました。このほか個人では男子が3種目、女子が5種目に優勝し、男子の3種目と女子1種目において準優勝、さらに男子7種目、女子3種目で3位という成績を収めました。男女における、ベスト8を含めた入賞等数は団体で19種目、個人では、59種目（男子33・女子26）を数え、今年、本県開催の「ゆめ半島千葉国体」での活躍が期待できる選手が多く育っていることを強く感じております。中でも、陸上男子走り高跳び優勝の専修大学松戸高等学校の戸邊直人選手は、中学校時代に香川県で開催された全国中学校体育大会でも優勝しており、インターハイでは2m21cmの自己新記録で優勝、さらに、「トキめき新潟国体」においては、2m23cmという高校新記録を樹立して優勝しており、今後の活躍が、極めて楽しみな選手です。

次に、第64回国民体育大会千葉県選手団の成績について報告いたします。

冬季大会は、昨年の1月から2月にかけて、青森県、新潟県を会場に、本大会は、9月から10月にかけて新潟県で開催されました。千葉県選手団の成績は、男女総合成績第6位（3年連続入賞）、女子総合成績第5位（昭和57年の島根国体以来27年ぶりの入賞）の成績を収めることができました。競技別の成績では、陸上競技と馬術が男女総合優勝（天皇杯獲得）及び女子総合優勝（皇后杯獲得）をしたのをはじめ、山岳が男女総合優勝（天皇杯獲得）及び女子総合第3位となるなど、男女総合成績で15競技、女子総合成績で、11競技が入賞いたしました。各競技・種別ごとに獲得した得点を前回大会と比較し、種別ごとの合計得点をみると、今回大会の大きな特徴として、少年種別が、272.5点と大きく得点を伸ばしたのに対して成年種別が得点を下げています。計画的に進めてきた強化事業により、勝負できる力がついてきた少年種別の躍進を喜ぶとともに、得点を下げた成年種別の原因を分析し千葉県国体に活かす取組をすでに開始しているところです。

続きまして、第65回国民体育大会冬季大会「くしろサッポロ氷雪国体」が終了しましたので報告いたします。本年、1月27日から31日まで、釧路市にてスケート競技とアイスホッケー競技が、2月25日から28日まで札幌市にてスキー競技が行われ、本県からは、本部役員・監督・選手、計77名が参加いたしました。その結果、スピードスケート競技「成年男子5000m」で1位となるとともに、「成年男子1500m」で4位、フィギュアスケート競技において、成年女子が総合4位入賞を果たしました。スキー競技では「成年男子スペシャルジャンプ」で2位入賞するとともに、「成年男子コンバインド」で4位に入賞し、スキー競技としては、17年ぶりに入賞を果たすことができました。得点としてスケート・アイスホッケー・スキーの3競技の参加点30点を加え、男女総合成績で70点（前回45点）を獲得し、20位（前回26位）という成績を収めました。この大会の成績は、第65回国体の男女総合優勝（天皇杯獲得）、女子総合優勝（皇后杯獲得）につながる第一歩であります。

今後は、残された半年間を有効に活用し、関係団体との連携を更に深め、一層の競技力向上に向けた事業を進めてまいります。

つづいて、第9回全国障害者スポーツ大会結果について報告いたします。

全国障害者スポーツ大会は、毎年全国から都道府県・指定都市の選手団およそ5,500人が参加する、国内最大級の障害者スポーツの祭典であります。

第9回を迎えた今年度の「トキめき新潟大会」は、10月10日から12日にかけて新潟県で開催され、千葉県からは125名の選手団を派遣しました。千葉県選手団は、大会において金メダル57個、銀メダル18個、銅メダル16個の合計91個のメダルを獲得、また、千葉市選手団も金メダル21個、銀メダル8個、銅メダル6個を獲得、共に過去最高の成績を収めました。これは、東京都、大阪府について、メダル獲得数では、全国第3位であります。

以上で、平成21年度各種大会の結果報告を終わります。

【質問等】

委員 全国障害者スポーツ大会は、県と市は別なのですか。

事務局 はい、政令指定都市は、県とは別になります。

2 協議事項

○「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業の取組について

(1) 【戦略1～戦略3】

「千葉県体育・スポーツ振興計画」は、千葉県の体育・スポーツ振興の基本理念として『スポーツや健康づくりの運動を習慣化し 自分の健康は自分で守る活力ある県民を増やす』ということを目指し掲げ、その達成に向けて『5つの戦略』が設定されました。この『5つの戦略』は、目標達成のための事業の方向性を示したもので、今回の資料はその事業に基づく具体的な取組について提示させていただきました。委員の皆様には、この事業の課題・成果及び今後の方向性についてのご意見・ご指導をいただきたいと存じます。

説明に入る前に、昨年7月に行われました第1回の審議会でもいただいた意見について、ご報告申し上げたいと思います。

小学校教員の多くが、体育授業に苦手意識を持っていることについて、「教員採用試験において、体育実技の内容をより充実させていくことを考えてはどうか」というご意見をいただきました。教育委員会の新規教員採用に関わる担当課に、ご意見を報告しましたところ、実技は、

二次試験において実施しておりますが、知識だけに偏らずより良い人材を発掘するという観点から、一次試験での合格者の枠を幅広くしているため、二次試験の受験者数が多く、あまり多くの実技は、実施できない状況にあるとの返答をいただきました。ちなみに、平成22年度の採用試験においては、マット運動の実技を実施しております。

それでは、「戦略1」について、ご説明いたします。戦略1は、「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」で、主に「学校安全保健課」及び「健康づくり支援課」による食育に関する事業と、「体育課」による体力づくりに関する事業があります。まず最初に、いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」について説明いたします。

本事業は、児童生徒の体力向上と社会性の育成を目的として、平成19年度より実施している事業です。走・跳・投を基本とした7つの運動種目を紹介し、それぞれの種目について各学校で実施した記録を県教育委員会に申告していただき、上位記録10校をHP上に公表しています。1年間を前・中・後期の3期に分けて、各期、それぞれ1位の記録には、「記録認定証」を授与するとともに、記録を一番多く申告した学校へは「学校賞」として「遊・友スポーツランキングちば大賞」を授与するなど事業の拡大に努めています。本年度は、328校が参加し14,750件の記録の申告がありました。中でも小学校の申告数は昨年度より1,181件増で、小学校を中心に全県下に取り組が拡大しつつあります。本年度の「遊・友スポーツランキングちば大賞」は、前期が佐倉市立印南小学校、中期が市川市立新井小学校、後期は前期に続き、佐倉市立印南小学校が大賞を受賞しました。また年間を通して一番多く記録を申告した学校に授与する「遊・友スポーツランキングちば年間大賞」に、本年度は佐倉市立印南小学校が輝きました。今後も、運動好きなきちばっ子を育成するため、研修会や会議等、様々な機会において、事業内容のPRに努めるとともに、参加部門や各学校種で取り組みやすい種目の検討を行うなどして、本事業の普及に努めてまいります。以上でいきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」についての説明を終わります。

次に、学校安全保健課が行っている食育に関する事業について説明いたします。

千葉県では食に関する指導資料として、食に関する学習ノート「いきいきちばっ子」を県内小学校1年生、3年生、5年生に約18万部を配布いたしました。これを、学習の主教材あるいは資料として、授業で活用したことがあるという学校は平成20年度において86.9%ありました。高学年を対象とした、「オリジナル弁当コンクール」への応募者も増加しており、今後も引き続き食育の推進に努めてまいります。

次に、「体育の授業マイスター認定事業」についてですが、本事業は、小学校の体育の授業において優れた指導力を有している教員を「体育の授業マイスター」として認定し、授業公開やその指導技術を写真やDVD等に収め活用したり、近隣校の体育授業の支援をするなど県下の小学校の体育授業の改善に役立てるものです。本年度は11名のマイスターを認定し、ここまでに21件の授業公開が実施され、324名が参観しております。また、体育授業の支援は56件であり、1,052名の先生方が対象となっております。各マイスターの授業DVDは、12月に市町村教委に配布し、347件、延べ2,656名の教師が活用しています。

つづいて、平成22年度から行う予定の文部科学省委託事業について、説明いたします。

まず「『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』に基づく子どもの体力支援事業」について説明させていただきます。文部科学省は平成20年度から、全国の小学校5年生と中学校2年生を対象とした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施しています。「子どもの体力向上支援委員会」を設置し、千葉県の結果を詳細に分析するとともに、各学校に、体力向上のための具体的方策を提案し、実施することで、本県の児童生徒の体力改善を目指すものです。

次に、「地域スポーツ人材を活用した運動部活動等推進事業」について説明いたします。

これまで、千葉県としては小学校、中学校の体育授業へ指導協力者を派遣する「学校体育実技指導協力者派遣事業」を行っております。本事業は、これまでのものを拡大し体育担当教員と指導協力者が連携し児童生徒を直接指導するものと、体育担当教員への指導法等について講習を行うことができるよう計画し、体育授業の充実と教員の指導力向上を図るものです。

では次に、戦略2の「県民の健康・活力を高める戦略」について説明いたします。

これについては、知事部局健康福祉部の健康づくり支援課をはじめ、高齢者福祉課・障害福祉課が戦略に関わる事業を推進しています。「県民一人ひとりの生涯を通じた健康づくり」を支援する取組として、平成20年3月に『健康ちば21』を策定し、『自分らしく、いきいきと暮らし続けるために、一人ひとりの健康力を育てよう』を基本理念に事業に取り組んでいます。

健康政策「健康生活コーディネート」の普及事業では、市町村が健康づくりに関する事業や保健指導等への取組みの基盤づくりとなる「健康生活コーディネート」の普及を推進するための支援として、「健康づくりサポート事業」や、千葉県福祉ふれあいプラザにおける、「健康づくり教室の開催事業」等があります。概ね、県が担うべき基盤整備とした目的を達成したことから、健康づくり教室については21年度をもって、また健康生活コーディネーターに対する研修事業については、22年度をもって終了する予定であります。

高齢者の健康の保持・増進に関する、高齢者スポーツの普及については、「老人クラブ連合への助成を通じて、老人クラブの会員の健康づくりを支援しております。「障害のある方々のスポーツ環境を充実させる」取組として、全国障害者スポーツ大会に、千葉県から125人を派遣し、第10回千葉県障害者スポーツ大会においては、4,547名の選手・役員が参加するなど多くの参加が得られました。今後も多くの障害者が参加できる大会運営に努めて参ります。以上で戦略2の説明を終わります。

次に、戦略3の「地域のスポーツ環境を整備する戦略」について、「地域の実情に応じた地域スポーツを振興する」取組みとしまして「広域スポーツセンター事業」について、説明いたします。県広域スポーツセンターは、「総合型地域スポーツクラブの育成・支援」を中心として事業に取り組んでいます。特に育成については、クラブ未設置の市町村に対する重点訪問を計画し、総合型地域スポーツクラブ設立のための情報の提供、市町村における設立に関わる課題の把握と対応策についての相談等、全ての県内未設置市町村について訪問を実施いたしました。訪問以外では、研修会開催による地域スポーツ団体等への啓発及び設立に必要な人材育成の支援等を行っております。また、国はクラブ育成率60%以下の都道府県を対象に、未育成市町村への設立支援のため「総合型地域スポーツクラブ特別支援事業」を委託事業として公募しました。本県では、今年度も、本委託事業を活用すべく、企画提案書を提出したところであります。「新たな生涯スポーツ指導者養成活用システムを開発する」事業とも連携を図り、設立済みの総合型クラブに対する支援としてのクラブマネージャーや指導者育成に関わる事業や、県内総合型地域スポーツクラブの情報交換のためのクラブサミットの開催事業を行っております。また、「スポーツ情報提供」事業としましては、県教委のホームページにおいて、県内総合型クラブの活動紹介や、助成事業に関する情報及び総合型クラブ設立・運営に関する情報を発信しており、さらに、教育委員会広報「県教委ニュース」の中で総合型クラブの活動紹介を連載しています。

「県民のニーズに応える公共スポーツ施設を整備する」取組としまして、総合スポーツセンターの施設整備について、説明いたします。平成21年度における総合スポーツセンターの主な施設整備は、屋外トイレ整備、水泳場解体及び駐車場整備、テニスコート改修工事などです。

屋外トイレ改修は、男女別のトイレ整備、大駐車場脇に多目的トイレ新設、洋式便器改修等（6箇所）を行いました。今年度のテニスコート改修は、砂入り人工芝コート2面の張替及び女子トイレの増設（洋便器3基）を行いました。また平成22年度は砂入り人工芝8面の張替及び観客スタンドの整備を予定しており、このテニスコートの改修については、スポーツ振興くじの助成金を活用した「グラウンド芝生化整備事業」で行います。この「グラウンド芝生化整備事業」には「天然芝生化の新設・改設」「人工芝生化の新設・改設」、「天然芝維持活用事業」があります。水泳場解体及び駐車場整備については、現在一般競争入札の公告をして解体業者・舗装業者の選定を行っているところです。工事については、平成22年度に繰り越して整備を行います。

次に、総合型地域スポーツクラブの育成・定着の状況について説明いたします。

平成21年度は、5つのクラブが設立され、今日現在で県内の設立クラブ数は、50クラブとなっております。また、平成22年度に、設立が予定されているクラブは、8クラブであります。設立済みの市町村数については、今日現在で、26市町（24市2町）となっており、全市町村中の割合は46.4%であります。また、印西市、印旛村、本埜村の合併により、県内の市町村数が54市町村になり、平成22年度までに設立が予定されている8クラブが設立すれば、31市町（29市2町）に設立されることになり、全市町村中の割合は57.4%となります。最後に、広域スポーツセンターとしては、未設置市町村の地域が抱える課題解決の方策及び設立後のクラブへの具体的な支援等、具体的なプランを提示し、今後1つでも多くのクラブが設立していくよう、支援を行っていき、地域の実情に応じたスポーツの振興に向け、事業を推進いたします。以上で、戦略3に関わる事業の説明を終わります。

協議 1

委員 各戦略別の予算について、アバウトでよいので教えていただきたい。

事務局 平成21年度予算については、戦略1が、4,435万3,000円、戦略2の予算額は、2億7,535万3000円、戦略3は、2億7,124万8,000円、戦略4は、4億2,955万4,000円、戦略5は、11億4,701万円となっております。

また、22年度の国体開催事業としての予算は、48億5,000万で、全国障害者スポーツ大会は、県が13億5000万、市（千葉市）予算が5億3,000万で合計、約19億円の予算となっております。

委員 できれば、今後の審議会においては、計画に関わる予算を必ず入れた資料を作成したほうが良い。

委員 県民の健康・活力を高めるという戦略2について、この事業は健康福祉部で行っているのだが、体育課との関わりについてはどうなのか。

事務局 特に、事業について直接的にお互いが協力して行うとか、関連を持ってやってはおりません。

委員 健康生活コーディネート事業が終了してしまうのは残念である。体育・スポーツ関係課とも関われる内容があったのではないか。

事務局 健康生活コーディネート事業が終了してしまうのではなく、この事業で行っているコーディネーターに対する研修と健康づくり教室が終了するのであって、事業については、今後も推進を図っていく予定であります。この事業は、県が主体で最初を行っているが、それを市町村の事業として移行していくよう目指してやってきている。

委員 3つ質問があります、

ひとつ目は、総合型地域スポーツクラブには、県民の健康づくりを担っている運動やスポーツ種目も多くみられ、健康行政とスポーツ行政の連携をもっと密にして行っていくほうが望ましいのではないか。健康行政では、継続的に、スポーツをする場を求めているが、総合型地域スポーツクラブそのものがどのような仕組みであり、どの

ような活動しているかをわかっていないのが実態であろう。

2つ目は、マイスター認定者は男性ばかりだが、体育の授業を苦手としているのは女性の教師の方が多いと思われる。平成22年度以降もこの事業を行うのであれば、是非、女性の体育指導の優秀な人を発掘していただき、マイスターとして認定し、女性マイスターの授業DVDを見て、多くの女性教師に、自分でもやればできるという自信を持たせていってほしい。

3つ目は、千葉県民のスポーツ意識実態調査をやってほしい。総合型地域スポーツクラブの普及等によって、これだけスポーツをする県民が増えたなど数値で示すデータがあると良いと思う。ちょうど国体を迎える年をゼロベースとして、スポーツ実施率などを把握する必要があると思う。

事務局 健康行政とスポーツ行政の連携に関連することでは、健康福祉部から健康推進の事業について、総合型地域スポーツクラブで活動している人たちに、お知らせ、説明したいことがあるということで、昨年、総合型地域スポーツクラブとの関わりの強い体育課に対して協力の申し出がありました。結果、体育課が情報提供など協力し、総合型地域スポーツクラブの会員の方に、健康に関連した事業のお話をいただいたことがありました。意図的、定期的に行う連携ではなかったが、健康行政とスポーツ行政の関わり方について、今後も協力できることがあれば、積極的に連携していきたいと考えております。また、体育課の総合型地域スポーツクラブの、未育成地域訪問事業について、今年度はスポーツ振興関係主管課に訪問し、クラブ育成等について依頼してきたところですが、22年度については、各市町村訪問の際には、敢えて健康福祉関係の部署に訪問し、総合型地域スポーツクラブについて説明していくことも計画しております。

スポーツ実施率については、新規 千葉県総合計画を策定するうえで、その計画のスポーツ振興に関わる施策に、「スポーツ実施率」を指標とした事業が盛り込まれております。そのことにより、平成22年度より毎年、県の世論調査において、県民のスポーツ実施率の実態調査を行う予定になっております。ちなみに、千葉県としては平成24年度までに、スポーツ実施率60%を目標数値として掲げました。

委員 どのくらいスポーツを実施したかということなど、その調査内容は、どのようなものですか。

事務局 内閣府の調査項目とほぼ同じ内容で、成人が週1回以上の運動・スポーツの実施率について、アンケート調査を行います。

委員 もうひとつは、スポーツを実際にやっているスポーツ人口についてはどうか。

事務局 調査が成人（20歳以上）の人に限られ、それ以下の年齢についてのデータはとれないので、県民全体のスポーツ人口についてのデータはとれないと思います。

委員 このことについての統計は以前からあるのか。

事務局 最も新しい千葉県のスポーツ実施率の統計としては、平成16年度のものがありません。

事務局 マイスターの女性の活用については、ご指摘のように、現在認定されているマイスターは全員男性であり、マイスターの任期は3年間ではありますが、今後、女性教師の

マイスター発掘に向けて、検討していきたいと思います。

委員 学校体育の充実を図るということについてですが、新しい学習指導要領の中で、幼・小・中・高の連携について記述されている。毎年、学校体育研究大会の開催しているが、近年特に、高校の教師の出席が少く、小・中学校体育の実態を高校の教師が、把握していないことについて、懸念している。県としても、高校の先生方をできるだけ多く出席させる手立てを考えていってほしい。マイスターの件では、高校でも初任者教員が非常に多くなっており、その教員の指導力の育成・向上に関しても県として考慮していただきたい。

委員 (仮称)「スポレク健康スクエア用地」の活用について、全庁的に考えていくということだが、具体的にはどういう活用が見込まれているのか。結論は出ているのか。

事務局 結論は、まだでておりません。22年度いっぱいまで検討を続けていく予定です。

委員 教育委員会でなく、知事部局が活用することになったりはしないのか。この用地の活用においては、スポーツ以外の用途ではやってほしくないと思います。

事務局 この用地取得に関する負債の返済は、平成22年度に終了します。平成20年度までは、教育庁において、その用地の活用について検討を進めてきたところですが、財政事情が厳しいということで、予算に見合う使い道が難しく、教育庁内での検討ではなかなか進まないことから、教育委員会だけでなく、全庁的な活用を含めて検討していくこととなり、平成22年度中には、一定の方向性を示せるよう検討をしているところです。

(2)【戦略4～戦略5】

それでは、戦略4の「ちばの競技力を育てる戦略」について説明いたします。

競技力向上推進本部事業は、平成22年を目標年度とした、平成14年から9年にわたる事業の8年目にあたります。時間の関係から補正で増額していただいた多くを充当し、本年度の重点として取り組みました「チームちばジュニア強化事業」、「国体選手強化・サポート事業」、本年から新たに取組んだ「国体会場地と連携した事業」の3事業について説明いたします。

はじめに「チームちばジュニア強化事業」ですが、千葉国体に出場する少年種別年代を強化するため、平成18年度から4年計画で取り組んできた事業です。本年度は、中学2年生から高校2年生までの年代を対象に、中央練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等を昨年より拡大して行いました。その結果、新潟国体で獲得した少年種目別の得点は、新潟県に続く第2位となり、大きな躍進を果たすことができました。なお、この大会の中心選手の半数は高校2年生以下でありましたので、この選手が千葉国体に出場しこれまで以上の結果をのこしてくれるものと期待しているところです。続いて、「国体選手強化・サポート事業」について、説明いたします。この事業は、国体に出場する選手の強化を目的に、平成15年度から継続している事業です。本年度は「チームちばジュニア強化事業」と同様に、中央練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等を昨年より拡大して実施しました。その結果、新潟国体の結果からは、選手全体のレベルアップは図れているものの、実力があり、大きな得点を期待していた競技(ソフトボール、サッカー、軟式野球、ボクシング等)が、得点できなかったことから、その原因を分析し、千葉国体に向けての取組みを、すでにスタートさせているところです。最後に、「国

体会場地と連携した事業」について説明いたします。この事業は国体会場地を活用した強化練習会や合宿を行うことで、選手が会場に慣れ、力を十分に発揮できるようにするとともに、国体選手による、スポーツ教室等を開催し、開催機運の醸成を目的として本年度から取り組んだ事業です。「チームちばジュニア強化事業」「国体選手強化・サポート事業」で行う強化練習会や合宿を、国体会場を使って行いました。会場の優先使用や、使用料の減免処置など、国体開催市町の協力をいただき26競技が実施しました。今後は、大会が近づくにしたがい更に競技団体から要望が出てくることが予想されます。反面、開催機運の醸成を目的として取組んだ国体選手によるスポーツ教室等については、地域からの要望がなく、実施に至りませんでした。以上で「ちばの競技力を育てる戦略」戦略4の説明を終わります。

最後に、戦略5「第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会を成功させる戦略」についてご説明いたします。日ごろ、ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会の開催に向けてご支援いただきましてありがとうございます。これまでの準備状況及び平成22年度の主な事業についてご説明いたします。今年度の秋、本県においていよいよ「ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会」が開催されます。本年度は、県内各地で競技別リハーサル大会の開催をはじめ、開・閉会式の式典実施要項や宿泊・輸送計画の策定などの開催準備を進めてまいりました。来年度は、これまでの開催準備を踏まえ、年度当初から具体的な準備に取り掛かり、心のこもった夢と感動にあふれる大会を目指してまいります。最初に、ゆめ半島千葉国体でございます。

企業協賛については、平成20年4月から募集を開始しておりますが、協賛金500万円を提供いただくオフィシャルスポンサーについては、本年2月末で、募集を締め切り、最終的に18社と契約したところです。チーバくん募金につきましては、1月末現在、671個の募金箱を設置し、約6,400万円の募金をいただきました。来年度は、職場募金・グッズ募金を開始し多くの方々から募金をしていただけるよう準備を進めております。広報・県民運動関係については、本番に向けて引き続き、チーバくんやイメージソングを活用した広報の展開、花いっぱい運動の推進など、開催機運の一層の醸成を図ってまいります。特に、本年6月には、開催100日前に当たり、両大会の一層の周知及び開催機運の醸成を図るとともに、618万県民総参加のおもてなしへの積極的参加を呼びかけるため、開会式会場に近い海浜幕張駅周辺で、「ドリームフェスティバル100（仮称）」を開催いたします。併せて、両大会で使用する炬火の採火式とウォークリレーの炬火イベントも予定しております。この炬火の採火やリレーに使用する炬火トーチを県立市川工業高等学校の生徒に、炬火を展示するための炬火受皿を、県立船橋高等技術専門校の生徒にそれぞれデザインしていただきました。また、両大会の開・閉会式で使用する炬火台についても、今年度は実施設計を行い、来年度に製作してまいります。

施設整備については、平成19年度から競技施設の改修を進めておりますが、来年度は市町村施設について引き続き8施設の改修整備に対し補助を行うとともに、仮設による施設整備等を予定しております。選手、監督、役員等の宿泊については、会場となる市町を中心に広域的な配宿を合理的に行うため、市町と合同で業務を委託しており、来年度は、配宿センターを設置し、全国から訪れる選手・役員等の宿泊申込受付・配宿業務等を行ってまいります。競技関係については、競技団体に対してこれまで審判員や運営員等の役員養成を行ってまいりましたが、来年度も引き続き、競技役員等の養成に対し助成してまいります。また、競技会場市町において実施する正式競技、公開競技及びデモンストラーションとしてのスポーツ行事などの競技会運営に対し助成してまいります。式典関係については、開・閉会式等の式典運営や演技内容などのより具体的な内容を盛り込んだ「式典実施要項」を3月中に策定する予定ですが、来年度は、この式典実施要項に基づき開催準備を進めてまいります。次に、全国障害者スポーツ大会でございます。施設整備については、県内外から訪れる選手団や観客の皆様が安全かつ快適に観戦できるよう、バリアフリーに配慮した開・閉会式会場や競技会場の整備を仮設により実施いたします。また、秋の大会の開催に備えて、事前に競技運営や県と市町の実施本部の円滑な運営等を検証するため、5月29日及び30日に、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場ほか13会場でリハーサル大会を開催することとしております。

最後に開・閉会式の入場者募集についてですが、両大会の入場者募集を4月中旬から開始いたします。国体は14,000席、全国障害者スポーツ大会は2,000席を募集します。

申込については両大会のホームページからの申込と県民センター・各市町村窓口を設置する専用申込用紙の郵送による申込みを予定しております。入場料金については、国体総合開会式は有料で、内野席は中学生以上1,000円、小学生以下500円、外野席は一律500円としております。なお、障害者スポーツ大会については、無料といたしました。両大会の開・閉会式に多くの方々の入場していただけるよう関係機関と連携し広報していく予定です。以上で説明を終わらせていただきます。

協議2

委員 予選がある競技については仕方ないところもあるが、国体に向けて、競技に実際取り組むのは監督と選手である。したがって、できるだけ早めに監督を決め、それぞれ競技に責任を持たせ、早めに取組めるようにした方が良く思う。これは要望です。

委員 国体の開催期間中、学校の扱いはどうなるのか。子どもたちが実際に競技を見れるような配慮はできるのか。

事務局 それぞれの市・町で開催する競技については、学校によって、学校行事として会場の競技を見に行こうかという話は聞いております。

委員 学校が休みになるとかは、ないのか。

委員 県によって取り扱いが違うようである。学校を休みにしていく見に行くところもあれば、学校行事で見学するところもあったようだ。

事務局 入場料については、有料なのは銚子市で行われる高校野球のみであり、それ以外は全て無料で見られます。

委員 開会式が有料であることから、競技も有料と思っている県民も多いのではないかと。無料で競技が見られるということをもっと広報等でアピールしていく必要があると思う。

事務局 千葉国体・千葉大会は無料であるということについては、ポスター等によって広報してまいります。

委員 県民の方に、国体に触れられていただく一つの方策に、おもてなしがあると思うのですが、具体的にどんなものなのですか。

事務局 まず、花いっぱい運動についてですが、13の県立農業高校に花を栽培してもらい、各会場地に、花のプランターをたくさん置いて、他県から来られた多くの方々をお迎えいたします。それと、ボランティアとして老人クラブ等にも参加していただき、9月上旬頃に、会場地の美化清掃を行います。様々なおもてなしを行うために、ボランティアを募集したところ、国体については、1,500人募集に、2,000人の応募があり、また、障害者スポーツ大会については、3,500人募集のところ、約

3,000人の応募がありました。会場市町においては、千葉の魅力を味わっていただくために、千葉県特産の農林水産物や観光のPRをしていくなどのおもてなしの準備を進めているところです。

委員 おもてなしマニュアル、というものがありますが、これは県民の方にお配りして、県外から来た人たちを、県民にもてなしてもらうのか。

事務局 各市町に実際のおもてなしの事例を入れたものも配布する予定をしております。

委員 せっかく、千葉県で国体が開催されるということで、ここにいる審議会委員には、競技や会場の視察について、事務局として特に考えてはいかないのか。

事務局 ご要望があれば、体育課とも検討しながら考えていきたい。

委員 千葉県のスポーツ振興に関わる最も重要な機関の委員として、全員ということでなく、せめて希望した委員については、是非、対応をお願いしたい。

事務局 わかりました。

委員 国において、文部科学省が管轄としていたスポーツの振興について、文部科学省から独立させ、スポーツ庁を設置しようとする動きがみられた。また、全国の市町村や都道府県においても、スポーツ所管課を教育庁ではなく知事部局に置くということがあるようだが、千葉県ではそれについてはどう考えているのか。

事務局 県では、今のところ特にそういうことについては考えておりません。

以上